

(1) 県調査の結果を基にした実態調査とその分析

「平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12月調査] Web報告書」によると、小学校社会の評価の観点別正答率は図1のように示されています。

評価の観点「社会的な思考・判断・表現」においては、小学5年生、6年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られます。また、報告文には、小学6年生においては、平成25年度調査から引き続き課題が見られていることが示されています。

さらに、調査結果の分析（成果と課題）には、小学校社会科において解決すべき課題が示されています。本研究では、以下のように整理しました。

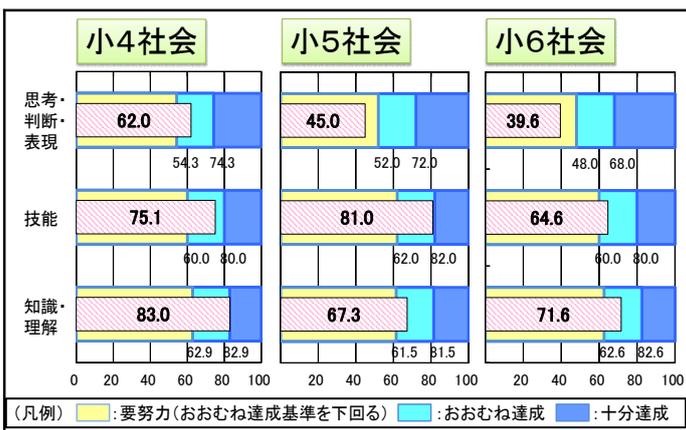


図1 平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12月調査] 小学校社会の評価の観点別正答率

小学校社会科において解決すべき課題

- ・ 資料から読み取った情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件などを考え、表現すること（社会的な思考・判断・表現）
- ・ 社会的事象についての基礎的な知識を身に付けること（社会的事象についての知識・理解）

これらの課題を解決するためには、以下の3つの力を育てるよう授業を改善していく必要があると考えます。

課題の解決に向けて児童に必要な力

- ・ もっている知識や調べて分かったことを根拠として社会的事象の意味を多面的、総合的に考える力（社会科における思考力・判断力）
- ・ 習得した知識を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明したり、論述したりする力（社会科における表現力）
- ・ 思考や表現などの過程を通して、基礎的な知識を身に付けながら社会的事象の意味を理解する力（社会科における知識を身に付け、理解する力）

これらの力を育てるためには、どのような手立てを講じればよいでしょうか。本研究委員会は、児童の実態を詳細に知ることから始められることをお勧めします。

一例として、課題に応じて学習状況調査の調査問題を改変した実態調査問題を作成し、研究委員の所属校において、児童の実態を調査した例を紹介します。

ア 調査目的

実態調査問題の解答を基に、児童の反応率や誤答傾向を分析することで、授業改善に向けた児童の実態に応じた小学校社会科における課題点を明らかにする。

イ 分析方法

- ① 設問の趣旨、学習指導要領における内容、評価の観点、正答の条件を明らかにする。
- ② 児童の解答を基に、児童の反応率や誤答を整理した解答類型を作成する。
- ③ 解答類型を基に、誤答の思考過程や解答の傾向を考察し、児童の課題点を明らかにする。

ウ 実態調査、分析

実態調査、分析の詳細について、一例を示します。

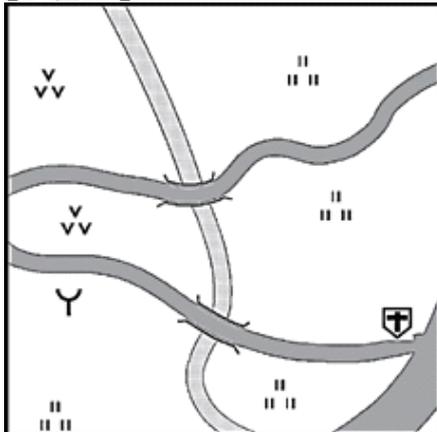
○実態調査問題の例（小学3年生）※平成26年度【県調査】[12月調査]4年 1-(2)を改変した問題

1

学校のまわりのようすについて、次の問いに答えましょう。

- (2) 太郎さんは、地図記号を使って【地図B】を作りました。【地図B】のもとになった地図としてあてはまるものを、あとのアからエまでのの中から1つえらんで、その記号を書きましょう。また、その記号をえらんだ理由（わけ）も書きましょう。

【地図B】



ア



イ



ウ



エ



○実態調査、分析の例（小学3年生）

・設問の趣旨

地図記号の知識を基に、実際の土地の様子に合った絵地図を選択し、その選択理由を適切に記述することができる。

・学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕 内容(1)身近な地域

(内容の取扱い)方位や地図記号について扱うものとする。

(解説)観察、調査した結果を地図に表したり地図を読み取ったりする際に必要となる方位や主な地図記号を理解し活用できるようにすること。

・評価の観点 社会的な思考・判断・表現（活用問題）

・関連する問題

平成26年度【県調査】〔12月調査〕4年 1-(2)

十分達成	おおむね達成	県正答率	無解答率
75.0	55.0	69.1	0.50

(正答の条件) 記号ウを選択し、川と橋、病院と消防署の位置について、適切な理由を記述しているもの

※選択した理由については、記述式で問題に付加して調査しています。

・解答類型（正答欄：◎…本調査での正答、○…平成26年度【県調査】〔12月調査〕では正答）

問題番号	解答類型	正答	反応率
1	(2) 1 ウと解答し、次の①②の条件を全て満たしているものを正答とする。 ①川と橋（道路）の位置について適切な理由を記述しているもの ②病院と消防署の位置について適切な理由を記述しているもの	◎ ○	29.6
	2 ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの	○	3.7
	3 ウと解答しているが、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの	○	44.5
	4 ウと解答しているが、川と橋（道路）の位置と病院と消防署の位置を記述していないもの。	○	3.7
	5 アと解答し、病院と消防署の位置についてのみ理由を記述しているもの		14.8
	6 イと解答し、川と橋（道路）の位置についてのみ理由を記述しているもの		3.7
	9 上記以外の解答		0
	0 無解答		0

・結果の考察

解答類型の1から4の類型結果から、ウを選んだ児童でも、選んだ理由を見ると、川と橋(道路)の位置、病院と消防署の位置の2つの情報を関連付けて説明することができていないことが分かる。

記号の選択だけで見ると、反応率が「十分達成」の基準を上回ったことから、複数の情報を関連付けて考えることができているとは考えられる。しかし、理由を説明する際、適切に説明ができた児童は29.6%であったことから、授業において、分かったことを関連付けて考えたり判断したりさせ、関連が分かるキーワードを用いた説明や表現をさせるなどの手立てを取り入れて、表現力を育成する必要がある。

誤答の傾向を見てみると、解答類型2、3のように、正答の条件①もしくは②のみを書いているものが、48.2%である。複数の情報を関連付けて理由を表現することに対して、本学級の児童は難しさを感じていることがうかがえる。また、正答の条件①か②のどちらかだけでしか判断できていないことも考えられる。授業において、複数の情報を関連付けた表現をさせ、関連付ける思考力を育てる手立てを取り入れていく。

このようにして、課題の解決に向けて必要な力を明らかにすることで、授業改善の重点事項が整理されます。本研究では、以下のように整理しました。

課題解決に向けた授業改善の重点事項

小学3年生では

- ・ 分かったことを関連付けて考えたり判断したりさせ、関連が分かるキーワードを用いた説明をさせるなどの手立てを取り入れて、表現力を育成する必要がある。

小学6年生では

- ・ 調べて分かったことや考えたことを基に、社会的事象の意味を総合的に理解させる必要がある。
- ・ 人物の業績や事象について調べた情報を整理し、総合的にその意味について考える学習を単元に位置付ける必要がある。
- ・ 1つの資料から「分かること」と「考えられること」を区別させた読み取りの指導から、「どんな意味があるのか」や「なぜそんなことをしたのか」を考えさせる指導、複数の資料を使っての指導へと段階的にスモールステップの指導を行う必要がある。
- ・ 単元を通して、複数の資料から分かることを使って、学習問題に対する考えを追究させることで、自分の考えを論述する力（表現力）を育成する必要がある。

引用文献

- ・ 佐賀県教育委員会 『平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査[12月調査]結果報告』 平成27年2月
http://www.saga-ed.jp/kenkyu/scholastic_attainments_analysis/H26_12_Webreport_center/documents/h26_12_ikkatu.pdf